



株主通信

第151期 上半期（平成28年4月1日 ～ 平成28年9月30日）



zoom-zoom

株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。
マツダグループの第151期 上半期の株主通信をお届けするにあたり、
ご挨拶申し上げます。

2016年11月

代表取締役社長兼 CEO（最高経営責任者）

小銅 雅道

業績の概況

当上半期のグローバル販売台数は、「マツダ CX-3」の
販売がグローバルに寄与したことに加え、中国における
新型「マツダ CX-4」の販売も順調に推移したことから、
前年同期比1.4%増の77万5千台となり、上半期として過
去最高の販売実績となりました。

連結業績は、新型「マツダ CX-9」や「マツダ アクセラ」な
どの商品改良モデル投入により車種構成が改善したこと
に加え、「モノ造り革新」によるコスト改善などの取り組みを
強化しましたが、円高に推移した為替影響等により売上高
1兆5,463億円（前年同期比9.1%減）、営業利益883億円
（同29.8%減）、四半期純利益（親会社株主に帰属する四半
期純利益）561億円（同36.5%減）となりました。

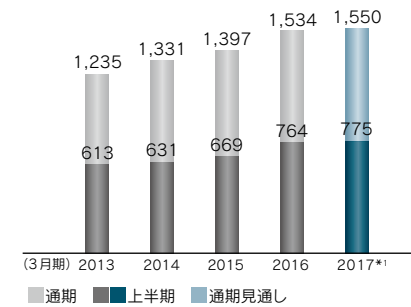
通期連結業績予想につきましては、為替レートが当初の
想定よりも円高に推移していることから、前提となる為替
レートを見直したこと等により、売上高3兆1,500億円、
営業利益1,500億円、経常利益1,550億円、当期純利益
1,000億円に修正しました。すべての領域におけるコスト
改善活動や固定費の抑制などの取り組みを一層強化し、

為替による減益影響を最小化してまいります。配当金に
つきましては、期初計画から変更ありません。中間配当は、
1株当たり15円とし、期末配当20円と合わせた年間配当
金は1株当たり35円を予定しています。

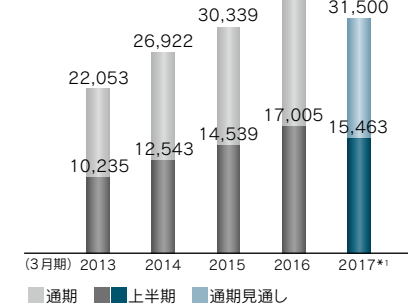
「構造改革ステージ2」主要施策の進捗状況

商品・開発領域では、SKYACTIV商品群の拡充と継続
的進化は順調に進捗しています。北米戦略モデル新型
「CX-9」に加え中国で新型「CX-4」を導入し、販売の拡大が
見込まれるクロスオーバー系車種のラインアップを強化
しました。また、新技術である新世代車両運動制御技術
「SKYACTIV-VEHICLE DYNAMICS」*を「アクセラ」に続き
「マツダ アテンザ」、「CX-3」、「マツダ デミオ」の商品改良
モデルに搭載し、一層の商品力強化を図りました。今後の
新型車につきましては、年内に国内での販売開始を予定し
ている「マツダ ロードスター RF」の生産を10月に開始し、
また、11月に開催された「ロサンゼルス自動車ショー」に
は、新型「マツダ CX-5」を出品しました。

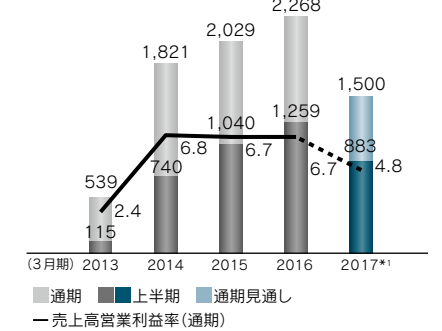
グローバル販売台数
(千台)



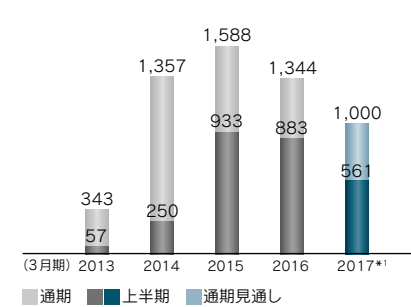
売上高
(億円)



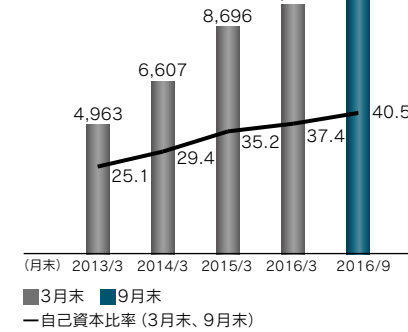
営業利益／売上高営業利益率
(億円／%)



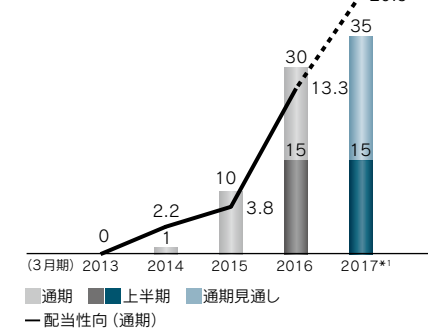
当期純利益（親会社株主に帰属する当期純利益）
(億円)



自己資本／自己資本比率
(億円／%)



1株当たり年間配当金*2／配当性向
(円／%)



*1 2017年3月期通期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。
*2 当社は2014年8月1日付で、5株を1株の割合で株式併合しています。

当社の「ビルディングブロック戦略」で計画した通り、
電動化技術では、商品化を前提とした電気自動車の技術
開発を進めています。また、関心が高まりつつある安全・
自動運転技術についても、先進安全技術「i-ACTIVSENSE」
を継続して進化させるとともに、マツダらしい「人が主役の
自動運転技術」の開発も進めています。

生産領域では、成長しているクロスオーバー系車種の
生産拡充のために、「CX-3」を現在生産している本社工場
（広島）に加え、防府工場（山口）でも2017年3月期中に
生産開始する計画です。

財務領域では、安定的な利益とキャッシュ・フロー創出力
の向上により、現金及び現金同等物の2016年9月末残高
が有利子負債を172億円上回りました。引き続き財務基盤
の強化を図り、安定的な経営基盤を構築するとともに、安定
的な配当と着実な向上を目指してまいります。
株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜
りますようお願い申し上げます。

* マツダの新世代技術「SKYACTIV TECHNOLOGY」のひとつ。詳細はP4のTOPICSを
ご参照ください。

美しいファストバックスタイルとこれまでにない オープンエア感覚による新しい世界観を提案

MAZDA *ROADSTER RF*

2016年11月予約開始 年内発売予定



写真：「2016 ニューヨーク国際自動車ショー」参考出品車

RFとはRetractable Fastbackの略で、リトラクタブル（格納できる）ハードトップの「R」とファストバックスタイルの「F」を表しています。ファストバックスタイルはクーペに分類される車の中でも、キャビンのトップからリアエンドまでなだらかにルーフラインが傾斜していくスタイルのことです。このクルマがもたらす今までにない上質な体験を忠実に表現し、ロードスターの普遍的な価値を残しながら、新しいお客さまの心をも引き付けたいとの願いを込めたネーミングです。

ロードスターの魅力を深め、広げる新たな挑戦、「マツダ ロードスター RF」

意のままにクルマを走らせる喜びをあらゆる人に感じてもらいたい。マツダはこの思いで、ロードスターをつくり続けてきました。初代の誕生から27年たった今も、私たちがこの車に込めている情熱は、何ひとつ変わりません。「ロードスター RF」では、初代から受け継ぐライトウェイトスポーツの楽しさを研ぎ澄ませた4代目「ロードスター」をベースに、革新美とも呼べるかつてないオープンカースタイルを提案し、楽しさの幅をさらに広げました。

ひとりでも多くのお客さまとクルマを通じた喜びとしあわせに満ちた人生を共有していけるよう、これからもマツダは「守るために変えていく」挑戦を続けてまいります。

人を魅了する開閉アクション

トップの開閉は、フロントコンソールに設けたスイッチの操作だけで完結。トップロックの操作も不要です。そして、3つのルーフとバックウインドーを連携させ効率よく動かすことで実現した、見る人を魅了する美しくなめらかな動き。さらに、ルーフを開閉する所作さえ美しい。そうした美しさへのこだわりの結果、世界最速レベル*の開閉アクションが生まれました。

* 2016年8月現在の市販電動ハードトップ車として（マツダ調べ）



（左）ロードスター開発主査兼チーフデザイナー 中山 雅（なかやま まさし）／（右）ロードスターアンバサダー山本 修弘（やまもと のぶひろ）

新商品

新型クロスオーバー SUV「CX-4」を導入

2016年4月末から5月初めに開催された「北京モーターショー2016」において、新型クロスオーバー SUV「CX-4」を世界初公開しました。

「CX-4」は、「SKYACTIV技術」とデザインテーマ「魂動（こどう）ー Soul of Motion」を全面的に採用した新世代商品群の最新モデルで、SUV需要の旺盛な中国市場においてマツダブランドのさらなる成長を支える商品です。2016年6月の発売以降、好調な販売が続いています。



新型「CX-4」

新商品

新型「CX-5」を世界初公開

2016年11月18日から開催された「ロサンゼルス自動車ショー」において、新型「CX-5」を世界初公開しました。

新型「CX-5」は、いまマツダがもつデザインと技術のすべてを磨き上げ、あらゆる領域で「走る喜び」を深化させたクロスオーバー SUVです。



新型「CX-5」

生産体制強化

タイのパワートレイン工場のエンジン生産能力を增強

グローバル生産体制強化における主要な取り組みとして、タイ王国チョンブリ県にあるパワートレイン生産拠点「Mazda Powertrain Manufacturing (Thailand) Co., Ltd.」（以下、MPMT）のエンジン組立工場の年間生産能力を、2018年上半年期までに現在の3万基から10万基に增強するとともに、同規模のエンジン機械加工工場を新設することを発表しました。MPMTをマツダにとって海外初となるエンジンの輸出拠点とすることで、グローバルに生産効率の向上を図ります。また、ASEAN域内に車両生産拠点があるマレーシア、ベトナムへの輸出を開始する予定です。

新技術

新世代車両運動制御技術

「SKYACTIV-VEHICLE DYNAMICS」を発表

「スカイアクティブ ピークル ダイナミクス（SKYACTIV-VEHICLE DYNAMICS）」は、エンジン、トランスミッション、ボディ、シャシーなどの「SKYACTIV技術」の個々のユニットを統合的に制御することで、マツダの提供価値の根幹である「人馬一体」の走行性能を高める新世代車両運動制御技術の総称です。この度その第一弾として「G-ベクタリング コントロール」を開発しました。ドライバーのハンドル操作に応じてエンジンの駆動トルクを変化させることで、これまで別々に制御されていた車両の横方向と前後方向の加速度（G）を統合的にコントロールし、四輪への接地荷重を瞬時に最適化。あらゆるシーンでスムーズかつ効率的な車両挙動を実現する世界初*の制御技術です。これにより、運転の楽しさや安心感が向上し、さらに、雨の日や雪道など滑りやすい路面での車両操縦性・安定性も高まります。2016年7月より日本市場にて発売した「アクセラ」に続き、「アテンザ」「CX-3」「デミオ」の商品改良車に搭載され、今後はすべての新世代商品に採用される予定です。

* 2016年6月現在の量産車として（マツダ調べ）



業務提携

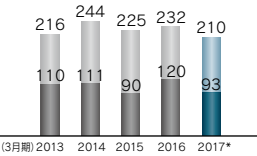
マツダといすゞ、いすゞ社製次世代 ピックアップトラックのOEM供給で合意

この度の合意は、10年以上にわたるいすゞ社からマツダへのOEM供給による協力関係をベースに、両社がピックアップトラックに関する協議を行った結果、双方にメリットがあることを確認したことによるものです。マツダは、競争力の高いいすゞ社のピックアップトラックをベースとした自社ブランド車により、ピックアップトラック市場における販売を継続していきます。

市場別ハイライト

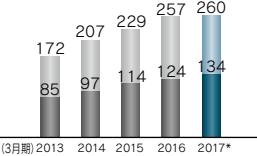
販売台数(千台) 通期 上半期 通期見通し

日本市場 93千台 (前年同期比23%減)



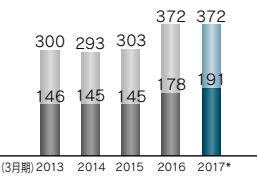
- シェアは前年同期比1.2pts減の4.0%。登録車シェアは同2.0pts減の4.8%
- 「アクセラ」に続き、「アテンザ」にも商品改良モデル投入。販売は改善トレンド
- 「デミオ」、「CX-3」など主要モデルの商品力強化により、下期で販売巻き返し
- 「ロードスター RF」の年内の販売を予定
- 通期の販売台数は、同10%減の21万台の見通し

欧州市場 134千台 (前年同期比8%増)



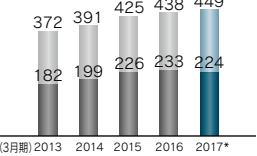
- 「CX-3」及び「MX-5」の好調な販売が台数増加に貢献
- ロシアを除く欧州は、前年同期比12%増の12万3千台
 - ・ドイツ:同9%増の3万3千台
 - ・英国:同3%減の2万3千台
- ロシアは、需要縮小とルーブル安により、同20%減の1万1千台
- 通期の販売台数は、同1%増の26万台の見通し

その他市場 191千台 (前年同期比7%増)



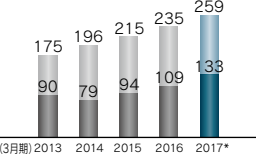
- オーストラリア:前年同期比4%増の6万台、シェア10%を達成
 - ・メーカー別販売で2位
 - ・「CX-3」、「CX-5」いずれもセグメント販売台数1位
- ASEAN:同18%増の5万4千台
 - ・タイでは同14%増、ベトナムでは同77%増
- ニュージーランド、コロンビアなどで、過去最高の販売台数
- 通期の販売台数は、前年同期並みの37万2千台の見通し

北米市場 224千台 (前年同期比4%減)



- 米国:前年同期比2%減の16万台
 - ・「Mazda3」、「Mazda6」に商品改良モデルを投入
 - ・6月より本格販売した新型「CX-9」は、上級グレードの販売比率が向上するなど好調な販売
- メキシコ:同9%減の2万5千台
 - ・ペソ安対応などで販売環境悪化
- 通期の販売台数は、同3%増の44万9千台の見通し

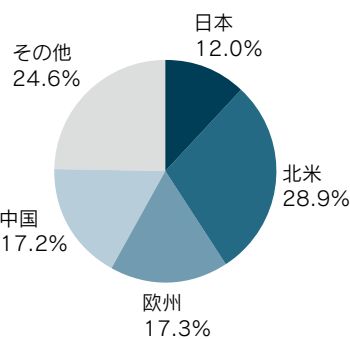
中国市場 133千台 (前年同期比22%増)



- 小型車減税政策の効果継続もあり、「Mazda3」が販売を牽引
- 6月より市場投入した新型「CX-4」の販売は好調に推移
- 8月には「Mazda6」の商品改良モデルを導入、好調な販売
- 「CX-5」の商品改良モデルが引き続き台数貢献
- 通期の販売台数は、前年同期比10%増の25万9千台の見通し

上半期のグローバル販売台数

775千台 (前年同期比1%増)



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位: 億円)

	2016/9末	2016/3末
資産の部		
流動資産	13,006	13,937
固定資産	11,187	11,547
有形固定資産	9,267	9,375
無形固定資産	302	307
投資その他の資産	1,619	1,864
資産合計	24,194	25,484

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結損益計算書(要旨)

(単位: 億円)

	2016/4 – 2016/9	2015/4 – 2015/9
売上高	15,463	17,005
売上総利益	3,796	4,259
営業利益	883	1,259
経常利益	826	1,211
税金等調整前四半期純利益	762	1,163
四半期純利益 (親会社株主に帰属する四半期純利益)	561	883

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

	2016/9末	2016/3末
負債の部		
流動負債	9,214	10,065
固定負債	4,961	5,652
負債合計	14,175	15,717
純資産の部		
株主資本	9,164	8,674
その他の包括利益累計額	624	866
新株予約権	1	—
非支配株主持分	230	227
純資産合計	10,019	9,767
負債純資産合計	24,194	25,484

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位: 億円)

	2016/4 – 2016/9	2015/4 – 2015/9
営業活動によるキャッシュ・フロー	808	1,407
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 121	△ 473
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 686	△ 483
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 163	△ 126
現金及び現金同等物の増減額(△減少額)	△ 162	324
現金及び現金同等物の期首残高	5,687	5,291
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,573	5,616

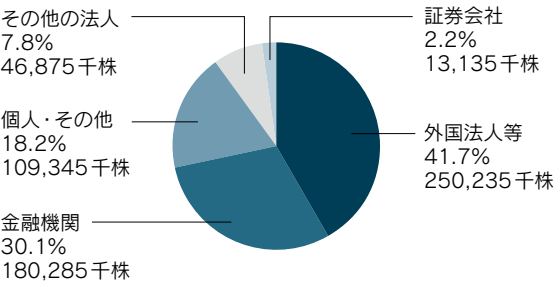
* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

* 2017年3月期通期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

株式の状況 (平成28年9月30日現在)

発行可能株式総数 1,200,000,000株
発行済株式総数 599,875,479株
株主数 156,278名
(前期末比2,324名減少)

所有者別状況



*「個人・その他」には自己株式が含まれています。

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	37,549	6.3
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	28,359	4.7
株式会社三井住友銀行	12,857	2.2
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	10,552	1.8
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	8,330	1.4
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口7)	8,323	1.4
DEUTSCHE BANK TRUST COMPANY AMERICAS	7,997	1.3
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	7,840	1.3
THE BANK OF NEW YORK 133972	7,530	1.3
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	7,046	1.2

* 持株比率は、自己株式2,052,009株を控除して計算しています。

会社概要 (平成28年9月30日現在)

商号 マツダ株式会社
設立 大正9年1月30日
資本金 258,957,096,762円
従業員数 連結:49,376名 単独:21,432名
本社 〒730-8670
広島県安芸郡府中町新地3番1号
電話(082)282-1111
ホームページURL <http://www.mazda.com/ja/>

取締役および監査役

代表取締役会長	金井 誠太	取締役	坂井 一郎
代表取締役	小飼 雅道	取締役	城納 一昭
代表取締役	丸本 明	監査役(常勤)	梶尾 信義
取締役	原田 裕司	監査役(常勤)	河村 裕章
取締役	中峯 勇二	監査役	赤岡 功
取締役	稲本 信秀	監査役	平澤 正英
取締役	菖蒲田 清孝	監査役	堀田 隆夫
取締役	藤原 清志		

株主メモ (平成28年9月30日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月	
基準日	定時株主総会	毎年3月31日
	期末配当	毎年3月31日
	中間配当	毎年9月30日
公告方法	電子公告 http://www.mazda.co.jp/	
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社	
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
・郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
・電話お問合せ先	☎ 0120-782-031	
・ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html	
単元株式数	100株	
証券コード	7261	

IRサイト「株主・投資家情報」をご活用ください。

社長メッセージや決算情報、プレゼンテーション資料など、さまざまな情報を掲載しています。

<http://www.mazda.com/ja/investors/>



本誌は植物油インキを使用しています。